

2015 年 7 月 23 日

(改訂日：2016 年 2 月 16 日)

※改訂履歴は最終ページに記載

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ

HULFT 事業部

HULFT Series 製品における Java の脆弱性(CVE-2015-2590 等)に対する報告

HULFT Series 製品における Oracle Java の脆弱性(CVE-2015-2590 等)に対する報告をご案内いたします。

－ 記 －

1. 脆弱性の内容

Oracle Java において、脆弱性が公表されました（CVE-2015-2590 等）。この脆弱性を悪用された場合、攻撃者によってコンピュータを制御される可能性があります。

〈Oracle Java の脆弱性に関する情報〉

<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/20150715-jre.html>

2. 調査状況

上記脆弱性について HULFT Series 製品における影響をご案内いたします。

〈HULFT Series 製品 調査状況 - 2016 年 2 月 9 日 9:00 時点〉

製品名	調査状況
HULFT	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT BB	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT8 Script Option	下記 2 点の脆弱性が影響します。 CVE-2015-2601、CVE-2015-2613 影響を受ける可能性があるのは以下の場合です。 ・ HULFT Script Server 設定において、HTTPS 通信をするように設定した場合 ・ 下記の機能を利用する場合 － クライアント機能 － FTP アダプタで SFTP サーバに接続する場合 － FTP アダプタで FTP over SSL サーバに接続する場合 － サーバ機能 － SFTP サーバを使用する場合 ※HULFT Script Server 上で動作する SFTP サーバで、FTP トリガーを動作させるためのサーバ HULFT8 Script Option は製品同梱の Java を使用するため、お客様での update 適用や外部 Java の使用は動作保証しておりません。お客様にて Java の update 適用は実施しないでください。 次期リリースで修正予定です。リリース時期は未定です。決定次第、情報を更新いたします。

HULFT-HUB	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT-DataMagic	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT-WebFT	下記 7 点の脆弱性が影響します。 Oracle Java をご利用のお客様は、ご利用の Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) 【注意点】 update を実施後は、Java の暗号強度制限を再度解除する必要があります。詳細は「HULFT-WebFT 導入マニュアル」をご参照ください。 CVE-2015-4748、CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749、CVE-2015-4000、CVE-2015-2808、CVE-2015-2659
HULFT-WebConnect	下記 5 点の脆弱性が影響します。 Agent 環境にて Oracle Java をご利用のお客様は、ご利用の Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) CVE-2015-4748、CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749、CVE-2015-2659
HDC-EDI Suite	<HDC-EDI Base> ・サーバサイドに下記 7 点の脆弱性が影響します。 Oracle Java をご利用のお客様は、サーバサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-2625、CVE-2015-2659、CVE-2015-2808、CVE-2015-4000、CVE-2015-4748 ・クライアントサイドにて以下の機能をご利用の場合、下記 15 点の脆弱性が影響します。 - deTrade2 クライアント画面の送受信アプレット - ACMS 運用画面の JOB 定義アプレット Oracle Java をご利用のお客様は、クライアントサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) CVE-2015-2590、CVE-2015-2596、CVE-2015-2619、CVE-2015-2621、CVE-2015-2628、CVE-2015-2632、CVE-2015-2637、CVE-2015-2638、CVE-2015-2664、CVE-2015-4729、CVE-2015-4731、CVE-2015-4732、CVE-2015-4733、CVE-2015-4736、CVE-2015-4760 <HDC-EDI Manager> サーバサイドに下記 6 点の脆弱性が影響します。 Oracle Java をご利用のお客様は、サーバサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) <u>HDC-EDI Manager Ver. 2.5.2</u> で Java8 をご利用のお客様は、制限事項があるため、併せて別資料「HDC-EDI Manager で利用可能な Java の制限について」をご参照ください。 CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-2659、CVE-2015-2808、CVE-2015-4000、CVE-2015-4748

iDIVO	下記 3 点の脆弱性が影響します。 <Windows 版> Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※) <Linux 版> 2015 年 9 月リリース予定の iDIVO Ver. 1. 5. 3 にて対応します。Ver. 1. 5. 3 へリビジョンアップを行ってください。 CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749
SIGNALert	影響ありません。Java を使用していません。

※本脆弱性に対応した Oracle Java の update は以下となります。

Java SE JDK and JRE 8 Update 51
Java SE JDK and JRE 7 Update 85
Java SE JDK and JRE 6 Update 101

3. 今後の対応

調査状況、リリース時期等に進展があり次第、情報を更新いたします。

【改訂履歴】

2015 年 7 月 23 日	初版作成
2015 年 8 月 5 日	- 下記製品の調査状況を更新しました。 HULFT-WebFT HULFT-WebConnect - 本脆弱性に対応した Oracle Java の update を記載しました。
2015 年 8 月 25 日	下記製品の調査状況を更新しました。 HDC-EDI Suite iDIVO
2015 年 9 月 7 日	・HULFT-WebFT の調査状況に【注意点】を追記しました。
2016 年 2 月 15 日	・HULFT8 Script Option の調査状況を更新しました。

以上